

Euglena Group

大和IR個人投資家向けIR セミナー 事業説明と今後の展望

株式会社ユーグレナ
東証プライム市場（証券コード：2931）

2026.8.1

【免責事項】 本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

会社概要

ユーグレナ・グループの事業

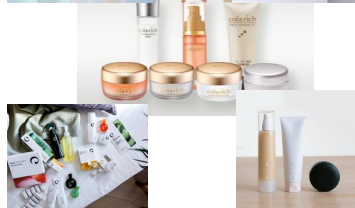
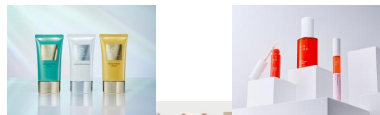
「人と地球を健康にする」のパーパスのもと、微細藻類を起点に、ヘルスケア、バイオ燃料、アグリ等の領域で事業を展開

ヘルスケア事業

健康食品



化粧品



ユーグレナ

Q'SAI

yaeyama

épauler

mej



The Strategic FAB Company
SATICINE MEDICAL

バイオ燃料事業



ユーグレナ PETRONAS enilive



その他事業

アグリ領域（肥料・飼料）



遺伝子解析



Genequest

ソーシャルビジネス



Grameen euglena

ユーグレナ社の歩み - 原点と挑戦

世界初となる微細藻類ユーグレナの屋外大規模培養の成功が起点

ユーグレナ社の原点



社長の出雲が1998年に
バングラデシュを訪問
「栄養失調問題を解決したい」
という思いから創業

創業後成長と挑戦



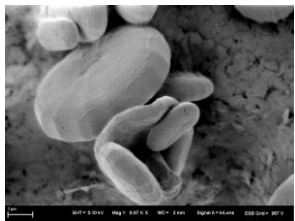
東京大学農学部発
の研究開発ベン
チャーとして創業
(2005)



世界で初めて
微細藻類ユーグレナ
の屋外大規模培養
に成功*1
(2005年12月)

微細藻類ユーグレナ - 生物としての特徴とポテンシャル

- 動物と植物の両方の特徴
⇒豊富な栄養素
⇒細胞壁を持たない
- 希少成分パラミロン
(特異的な β グルカン)
⇒不溶性で、様々な機能性
- 体内に油脂を生成



パラミロン

撮影：青山学院大学 福岡伸一教授

ユーグレナ[∞]

バイオマスの5F

重量単価

Food
(食料)



食品
原料



健康
食品

Fine Chemical
(高機能原料)



パラミロン



化粧品原料

Feed
(飼料)



畜産



養殖

Fertilizer
(肥料)



有機肥料



有機培養土

Fuel
(燃料)

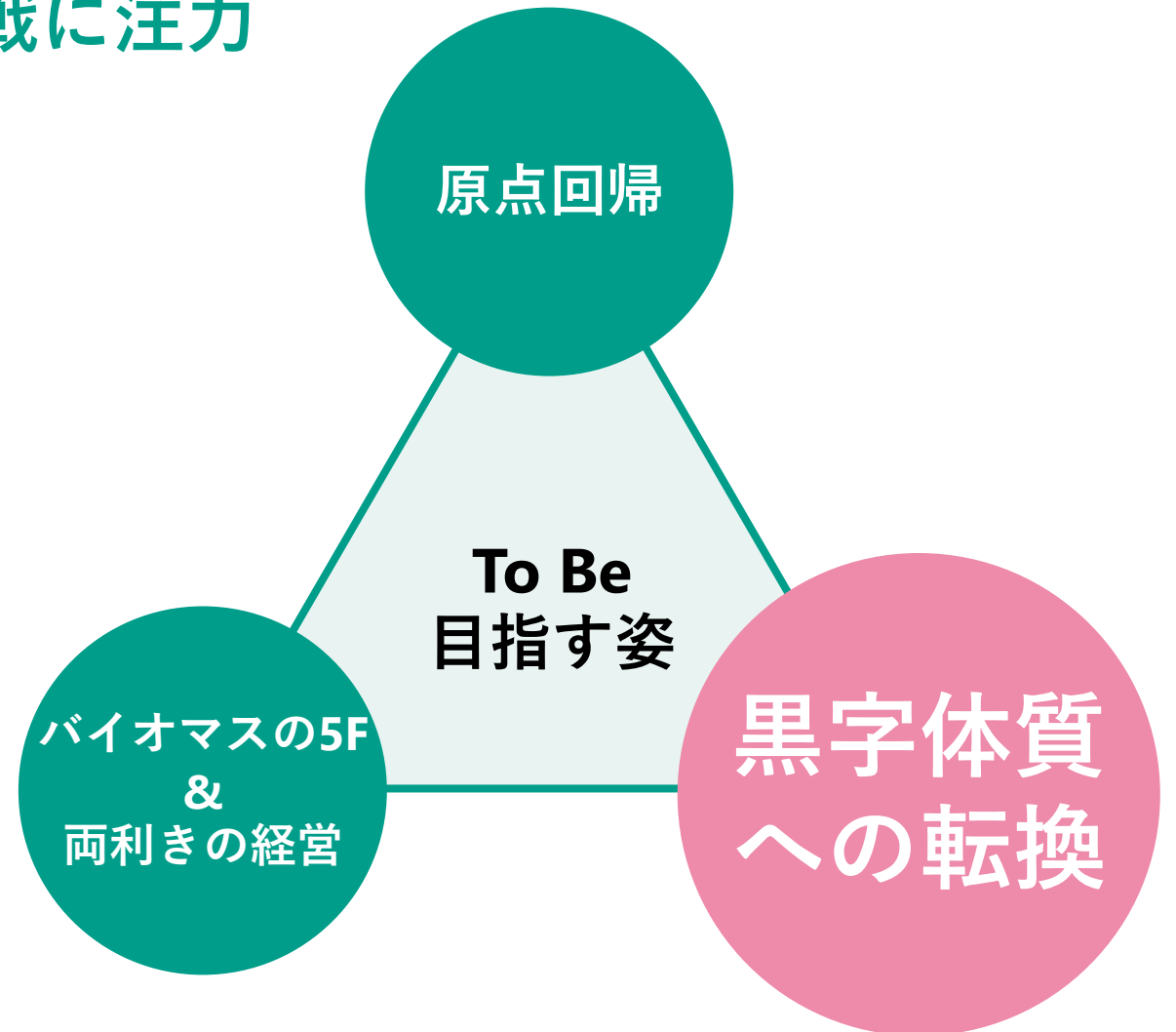


バイオジェット燃料
バイオディーゼル燃料

ユーグレナの現在地

新経営体制への移行から2年

2024~2025年は「黒字体質への転換」を集中的に推進、
2026年は新たな成長に向けた挑戦に注力



売上高

ヘルスケアが成長率引
過去最高の
売上高を達成

500億円突破！

(億円)

600

■ ヘルスケア ■ バイオ燃料 ■ その他

504億円

500

400

300

200

100

0

FY2023

FY2024

FY2025

+8%

調整後EBITDA（現金創出力）とマージン

売上増以上に
稼ぐ力が改善

2年間で3倍！

(億円)

80

60

40

20

0

グループ横断で
収益構造改善を
実施

69億円

20%

15%

10%

5%

0%

22億円

5%

14%

FY2023

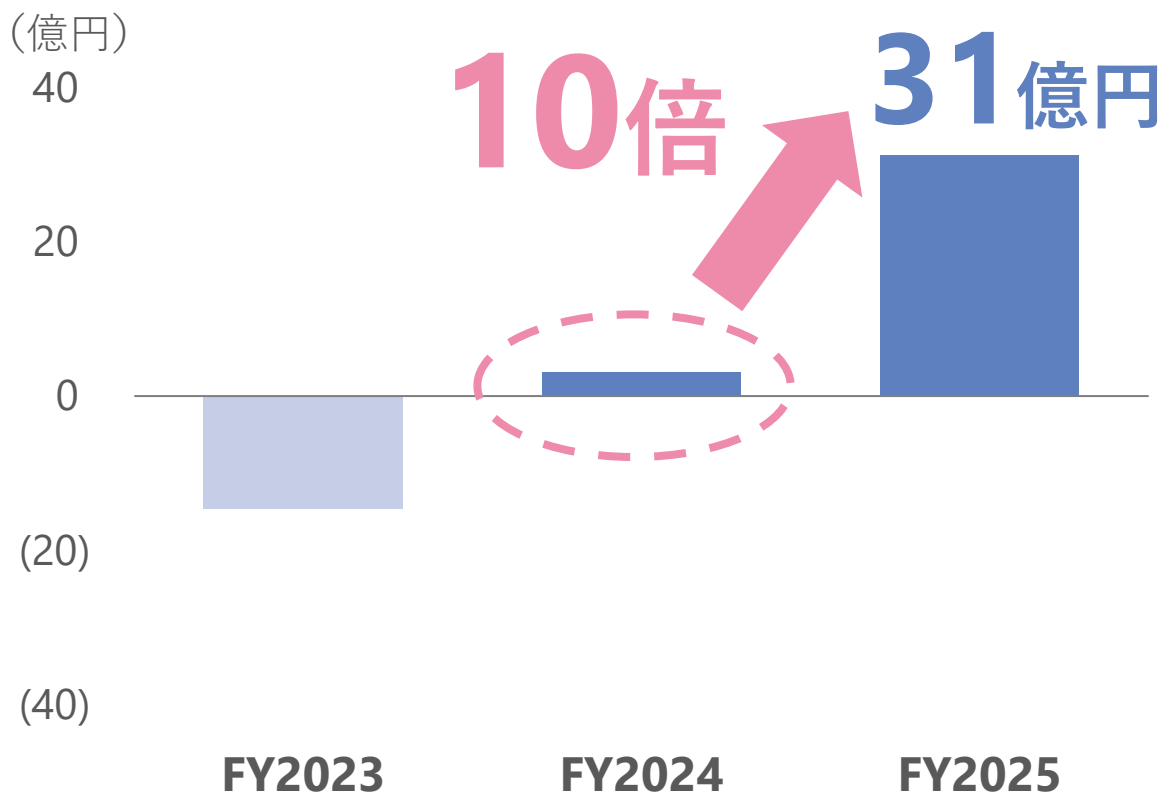
FY2024

FY2025

黒字体質への転換

営業利益は24年に黒字化達成、25年は1年で10倍の成長
今期、当期純利益の黒字化を目指す

営業利益



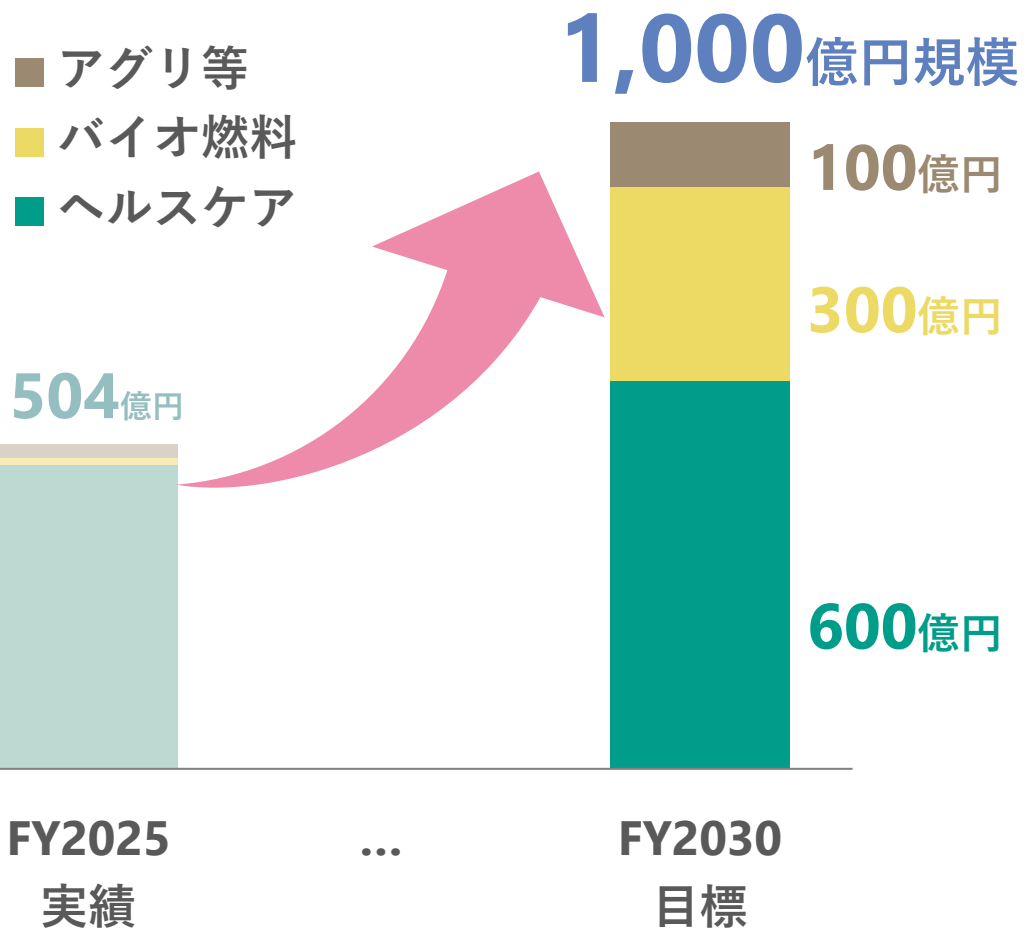
当期純利益



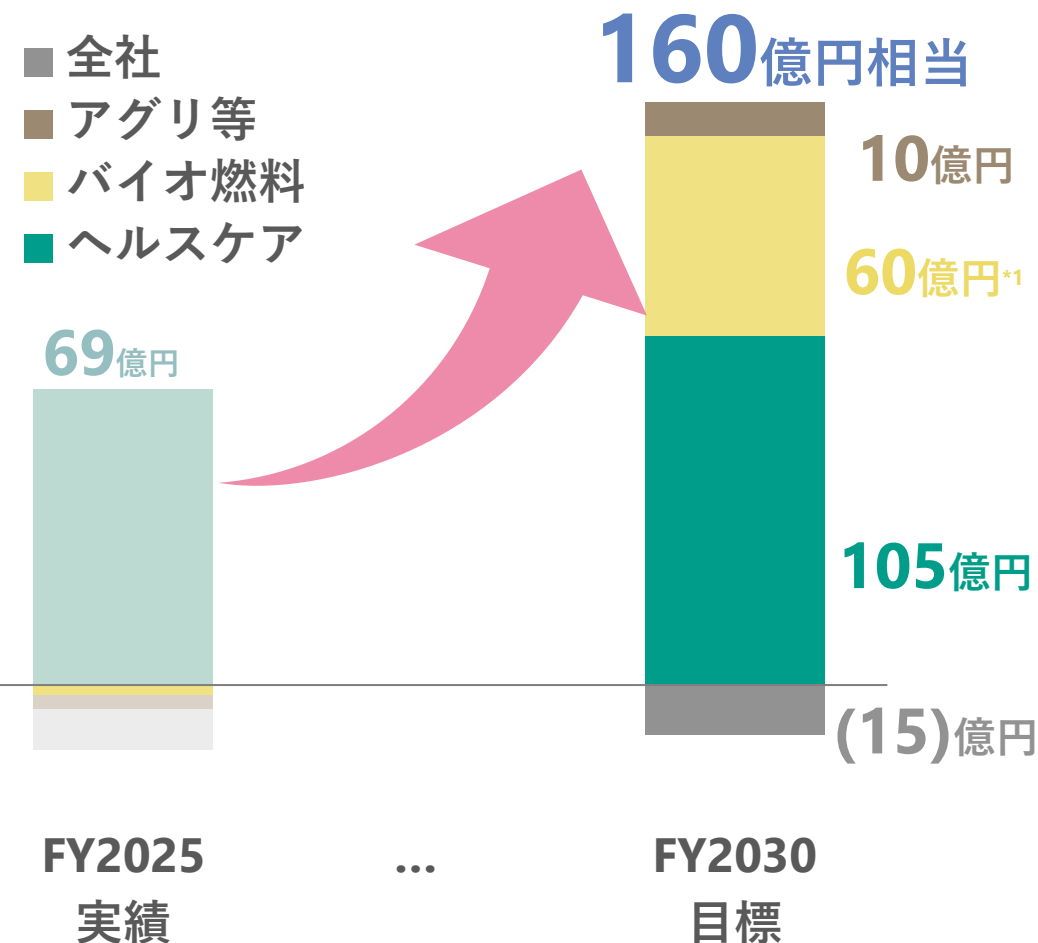
2030年度目標

バイオ燃料商業プラントの本格稼働により、2030年は飛躍的な収益成長を目指す

売上高



調整後EBITDA

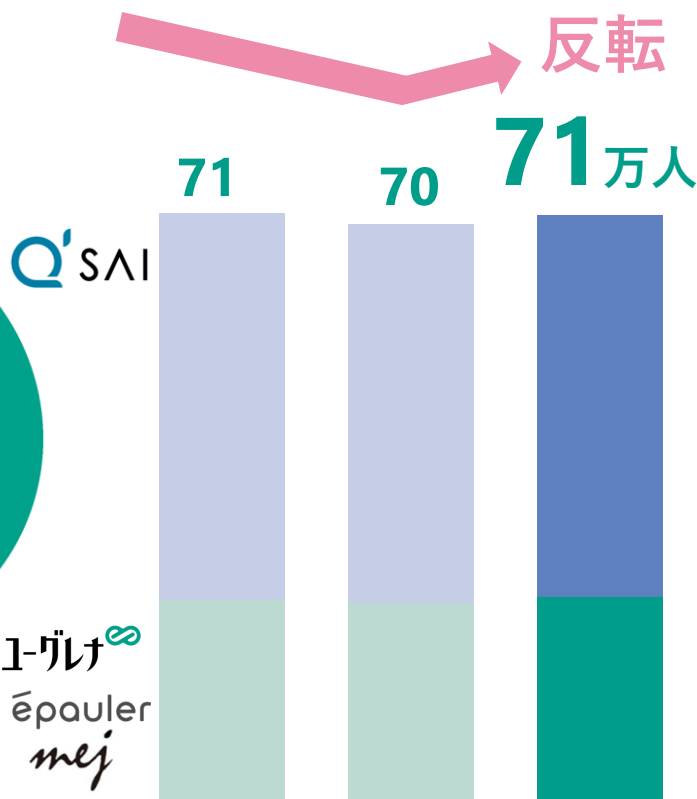


ヘルスケア事業

多様なブランドポートフォリオ

25年に直販定期顧客数が反転。からだにユーグレナが成長をリード

定期顧客数推移



FY2023 FY2024 FY2025

1-グレ[∞]

ブランドポートフォリオ

1-グレ[∞]

からだにユーグレナ



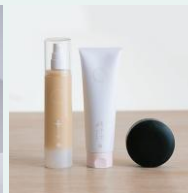
one



CONC



akyrise



Q'SAI

ひざサポート
コラーゲン

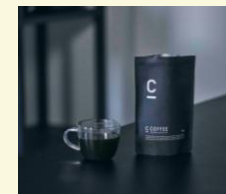


コラリッチ



mej

C COFFEE



épauler

epo



ユーグレナ通販の再成長

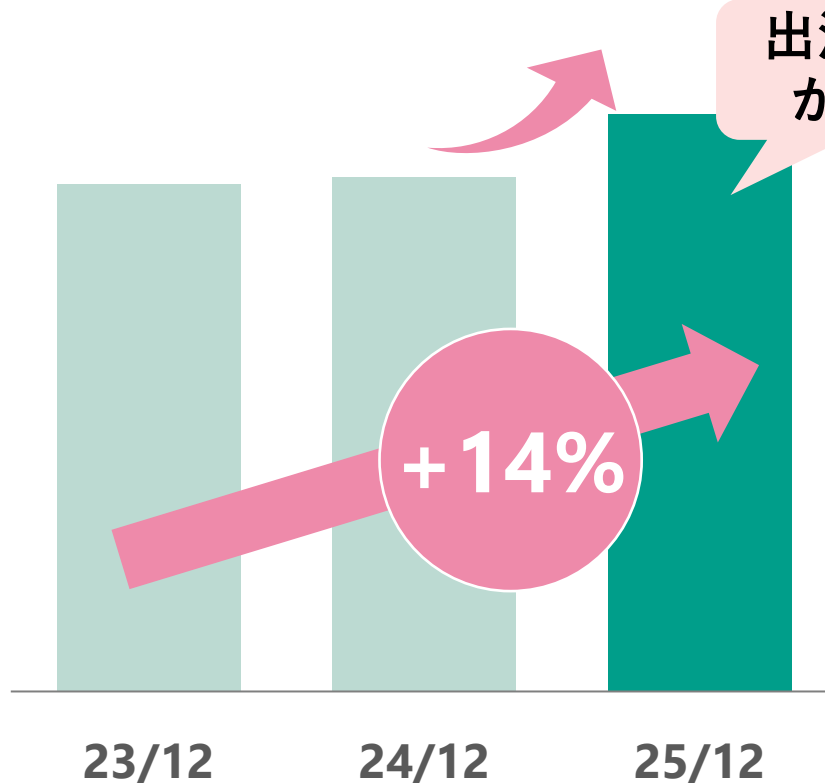
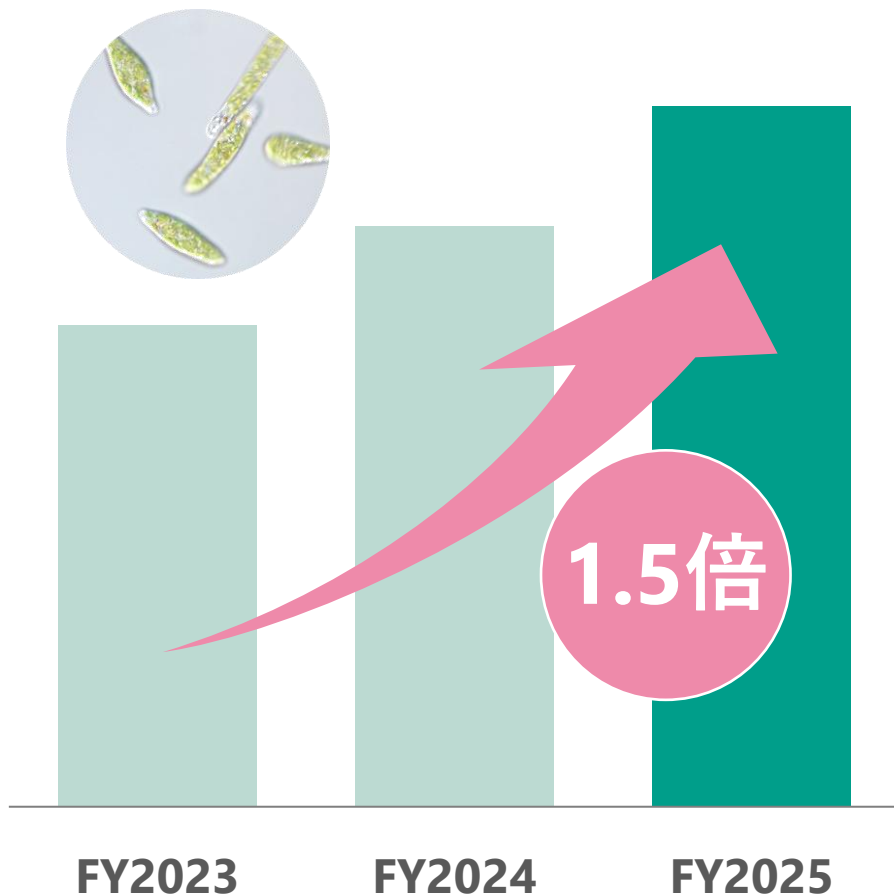
ユーグレナ商品の通販売上が2年で1.5倍、最盛期に迫る水準まで復活

ユーグレナ商品通販売上*1（単体）

定期顧客数の推移

からだにユーグレナ（健康食品）

出汁商品
が好調



継続率の高い
基幹ブランド

シニア世代向け商品

59種類の栄養素と機能性表示で、『毎日の健康』を支える

お悩み



年齢とともに、
複数の健康課題を抱える時代

健康を支える商品群

59種類の栄養素



機能性表示食品



子育て世代向けお出汁のヒット

忙しいパパママの「時短×栄養」需要を解決。そっと日常に浸透

ヒットの理由

- 共働き家庭の“時短×栄養”ニーズに刺さる内容
- 料理シーンで再現性UP
- ママ目線の作り方への共感（火を使わない・冷凍ストック）

定期顧客数
1万人突破

お客様の声

バレずに
鉄分補給



考えなくて
いい栄養



機能性表示の拡充と原料展開の強化

マルチ機能性素材としてのパラミロンの可能性を追求

「金のユーグレナ」の承継で「免疫機能の維持」機能性表示が追加、研究成果も大幅に拡充

パラミロンの機能性表示素材としてのポテンシャル



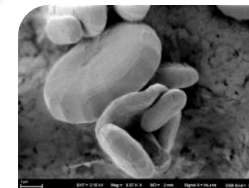
緑のユーグレナ



金のユーグレナ



希少成分パラミロン



両研究成果を融合し
マルチ機能性表示の
拡充を加速

疾患領域（慢性腎臓病）への挑戦

慢性腎臓病（CKD）は医療分野における重要課題の一つ
ユーグレナの独自成分パラミロンを活用

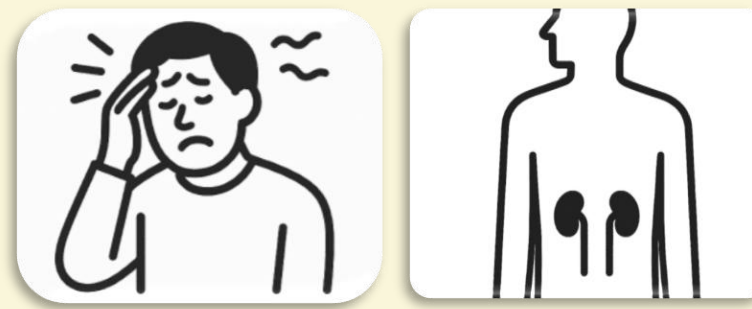
社会課題

- 日本のCKD患者は約2,000万人（成人5人に1人）*1、うち透析患者は約33万人*2
- 関連医療費は年1.6兆円*3（医療費総額の4%）以上



求められる対応

- 腎疾患進行すると不可逆
- 進行抑制と食事負担の軽減が重要



2030年代前半に
100億円超
規模を目指す

過去の研究資産とパートナーシップを活かし実用化に挑戦

*1: CKD診療ガイドライン2024

*2: 日本透析医学会年次統計調査（2024年末時点）

*3: 厚生労働省 第139回社会保障審議会医療保険部会「参考資料2」（2021年、https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15981.html）

海外展開の本格化

アジア・米国で製品販売、OEM、展示会出展を推進



中国



韓国



米国



フィリピン



シンガポール



バイオ燃料事業

バイオ燃料市場 - 脱炭素規制とエネルギー安保が需要を創出

脱炭素とエネルギー安保を同時に満たす現実的な選択肢

SAFの混合義務化

欧州

- 2025年より2%導入
- 2030年には6%導入



日本

- 26年にGX-ETS始動
- **2030年に10%導入**



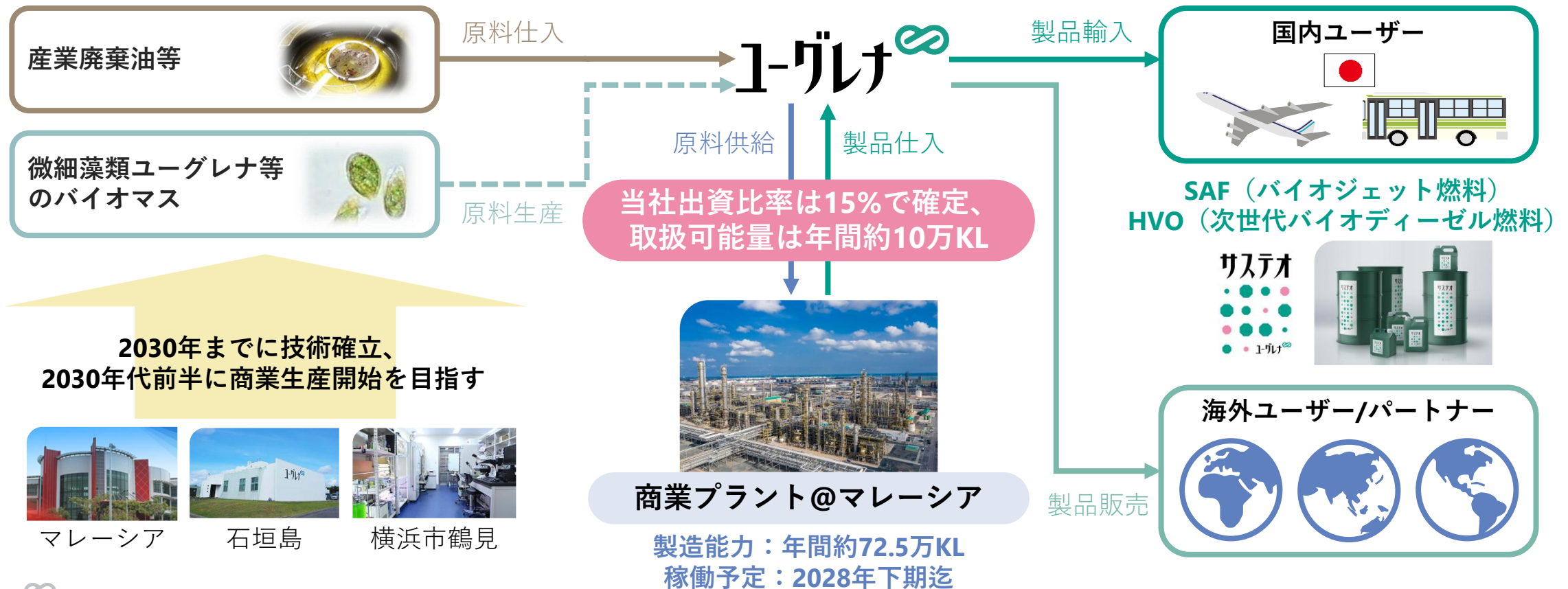
ビジネスモデル - 商業化のイメージと今後のステップ

商業プラントへの15%出資%で、製造面の主要マイルストーンは達成済み。
約10万KL/年の取扱いに向けて、原料調達/生産面と販売面の体制構築に注力。

1 原料調達/生産

2 製造

3 販売



バイオ燃料事業 - 商業プラントの建設



マレーシアPETRONAS社の敷地内に建設中



- 製造能力：約**72.5万KL/年**相当*2
- スケジュール：**2028年下期迄**の稼働開始予定

売上高（原料/製品トレーディング）

300億円/年規模

税引前利益（資金調達影響を除く）：

60億円/年以上 + トレーディング利益

取扱量
10万KL/年

*1: 約13億米ドルを150円/米ドルで換算

*2: SAF、HVO、バイオナフサの製造量

*3: バイオ燃料取扱量約10万KL/年相当、バイオ燃料価格@300円/L、本合併会社の純利益率20%以上・配当性向100%（資金調達影響は加味せず）という前提条件のもと、例示を目的として作成した当社独自のシミュレーション値。当社又はプロジェクトの正式な予測値・目標値ではなく、今後の事業進捗や市場動向により変動

バイオ燃料事業 - 国内のSAF/HVO供給事例

電化が困難な液体燃料領域での需要が増加

供給実績
130件以上

SAF



商業用ジェット機



政府専用機



航空自衛隊戦闘機

HVO（次世代バイオディーゼル燃料）



運輸・物流（バス・トラック、鉄道）



船舶・商船



建設重機



ボイラー（工場）

注：2018年10月～2024年1月まで稼働していた実証プラントで製造したSAF/HVOの供給、および2024年2月以降の輸入品の供給

バイオ燃料事業 - 路線バスでのサステオ51導入

電化が困難な液体燃料領域において、サステオ51の本格導入も進展



東急バス

実運用での導入 **初事例** (2026年4月～)

バイオ燃料混合比率：51%

導入台数：65台

使用量：1,000KL/年

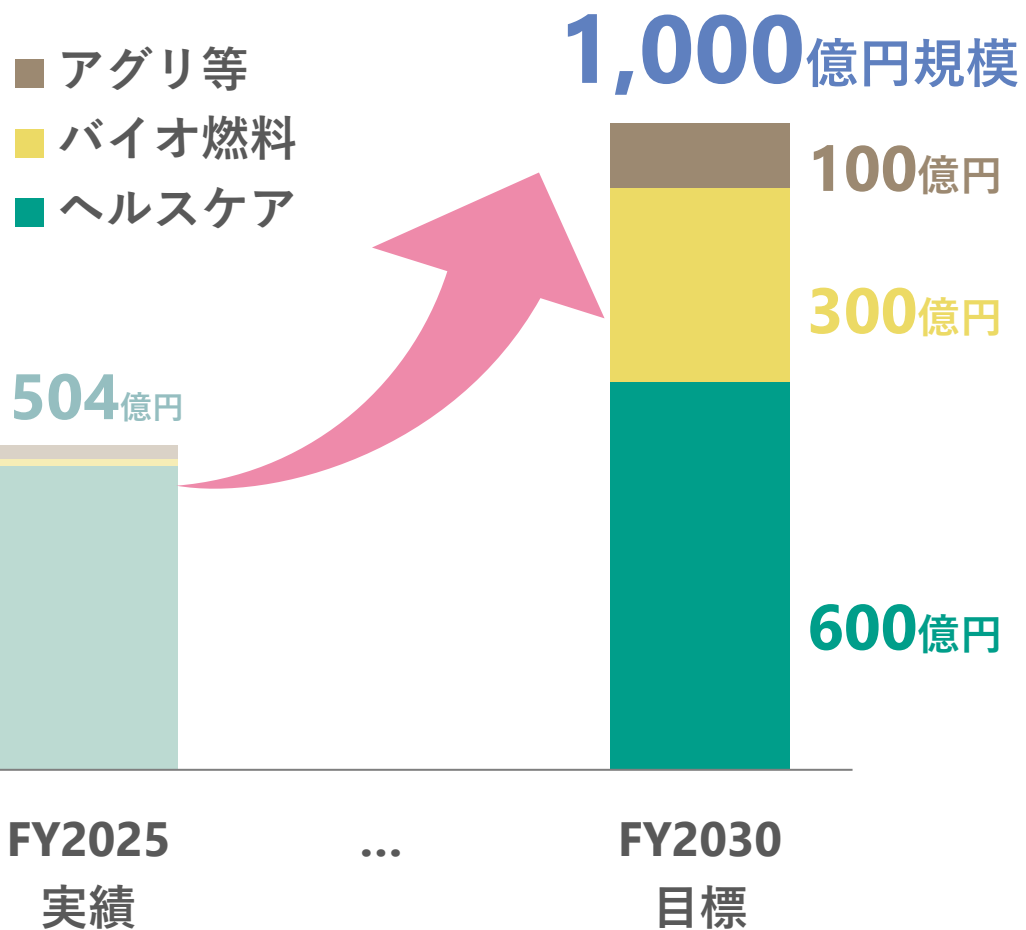


最後に

2030年度目標

バイオ燃料商業プラントの本格稼働により、2030年は飛躍的な収益成長を目指す

売上高



調整後EBITDA

